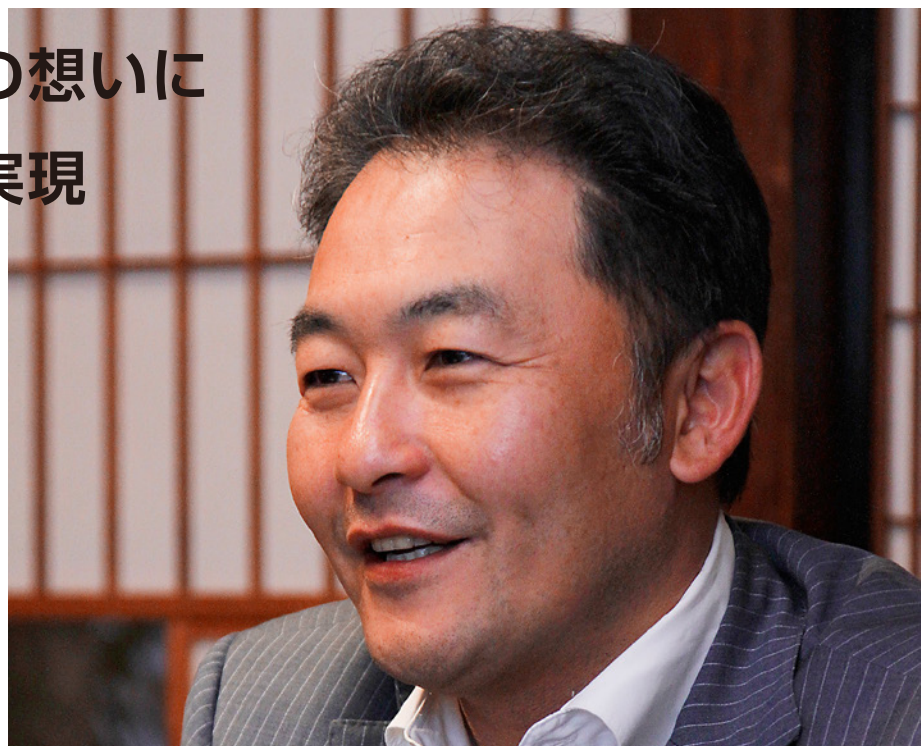
# 廃業の危機から一転、社員の想いに助けられ新業態への進出を実現

株式会社黒船 代表取締役 村山幸造氏



新鮮な海鮮が自慢の郊外型居酒屋「黒船」、こだわりの鶏料理専門店「鳥蔵」、江戸時代の土蔵を改修した趣ある建物も魅力の「鳥蔵別邸 東屋」の全7店舗を展開し、業績を伸ばし続ける株式会社黒船。その創業者である村山幸造代表取締役に、廃業の危機に追い込まれた後に見事復活を果たした時代を振り返っていただきました。

## ■時代や環境が激しく変化

私が起業したのは今から約20年前。バブルがはじけてデフレ経済が始まる頃でした。となると、お客様は近場で安く済む家族サービスや仲間との楽しみ方を模索し始めます。結果人気を集め始めたのが郊外型の居酒屋でした。しかし時代の移り変わりは速く、飲酒運転の取り締まりが厳しくなるなど厳しい逆風が吹き始めたのです。

## ■覚悟を決めて社員旅行へ

さすがにすぐそばでパトカーが見張っているお店などお客様は敬遠なさいます。その影響もあって売り上げはすぐさま激減し、当然ながら無理なコスト削減等を実施せざるを得ませんでした。でもその代償は大きく、スタッフの士気は下がり、職場から活気が失われました。現状打破のためさまざまに工夫も凝らしましたが効果はなく、私は１人廃業する覚悟を決めました。しかし、そう決意してしまうと、緊張感から解放されたからか気持ちが穏やかになりました。そこで、思い切って全店を休業し、社員旅行に出掛けることにしたのです。皆には申し訳ないけれど、廃業のことは帰ってから話すつもりで出掛けている間は思い切り楽しもうと思っていました。

## ■一番大切なものは何か？

社員旅行は笑いに満ちた、とても充実したものになりました。その極みが社員からの「来年も再来年もまた行きましょうね。私たち、頑張りますから！」という言葉でした。嬉しさと同時に、業績の悪化を環境のせいにして逃げていた自分が恥ずかしく、思わず涙が出ました。そもそも一番大切なのは、“会社を存続させること”ではありません。最高の食と空間を社員と共に創造しお客様に届けることを目指していたはず。勝手にすべてを諦めようとしていたのは私なのだと、社員たちに気付かされました。奇跡のような話ですが、それ以降士気が高まって活気が戻り、「鳥蔵」という中心市街地での展開および新ブランド確立も成功させることができたのです。

## ■考え方次第で人生は変わる

先輩方に「成功には運も大切」と、お言葉をいただくことがあります。どんなに能力があっても運が良くなければ生き残れないのが現実だと、私も思います。しかし、そもそも運の良し悪しも考え方次第です。自分の選択を信じていれば、どんな結果や状況も「運が良かった」「これが最良の道」と、納得し前進し続けられますから。

20代の終わりに起業してから、お客様に食の「楽しさ、喜び、温かさ」を与えるために走り続けてきた村山代表。「苦しい時こそ周囲に目を向け、支えてくれる人の存在を思い出してほしい。そうすれば、道は拓けるものです」と、自身の経験を振り返りつつ語ってくれた。

次回は、有限会社 旬彩菓たむら **田村康博さんです**

**村山幸造氏（むらやま･こうぞう）**
**株式会社黒船 代表取締役**

長野市の小さな魚屋の息子として育つ。幼少期は外食の機会が少なく、意外にも食に対する興味は薄かったとか。だからこそレストランでのアルバイトや割烹の修業時代に体感した食への感動は、揺るぎない原点として心に存在し続けている。